



令和7年度 幼児教育研修（幼児保育）

「すべての子どもが育ち合うインクルーシブな保育」  
～子どもたちを支える保育者のまなざしや配慮～

日時：令和7年10月6日（月）15：00～17：00

会場：足立区役所 庁舎ホール

講師：共立女子大学 家政学部児童学科 教授 広瀬 由紀 氏

### 統合保育とインクルーシブな保育

#### 統合保育

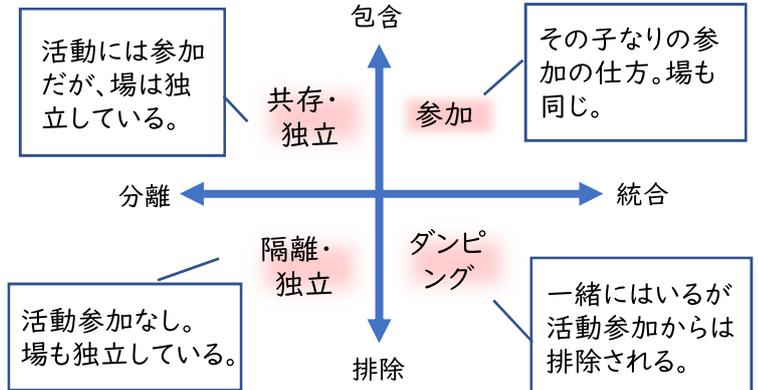
- ・「同じ」が考え方の基本
- ・「同じ」ではないことへの違和感
- ・「同じ結果や状態」に近づけるための**試行錯誤**

#### インクルーシブな保育

- ・「違う」が考え方の基本
- ・「違う」からこそ知りたい
- ・「違う」人たちどうしが共にある姿そのものを**試行錯誤する過程**

### 「場」の統合×「活動参加」

(浜谷, 2005を基に作成)



「〇〇しかできない」という捉え方よりも  
「〇〇ができた」という捉え方が大切。

#### 子どもへの2つのまなざし

- 評価のまなざし
- 共感のまなざし

#### 目に見える行動と目に見えない思い

□ 冰山モデル  
代表として表れている姿は、氷山の一角でしかない。  
その**行動に至る「背景」**に着目して支援を考える。  
この「背景」が重要。受け止めていく。

#### 育ちの基礎となる3ベース

- 自己肯定感
- 他者への信頼感
- 自己有用感



#### 認める・肯定すること（ぽかぽか言葉）

- ・失敗が許されないのではなく、次にトライした気持ちを受け止める。
- ・その子の思いを肯定的に受け止める。
- ・いろいろな「参加」を考える。

### 「困った子ども?」「困っている子ども?」

★みんなと一緒にできない!  
→初めてがすごくドキドキする?

★いつも話を聞かない!  
→「聞くことば」は理解が難しい?

★部屋に誘っても、嫌だと言って動かない!  
→遊びを止められたと思った?

★周囲に嫌なことばかりする!  
→友達と関わりたい

★集まり前になると部屋からいなくなる!  
→雰囲気はザワザワしてる? その空間が苦手?

★集まりの前のざわつきがうるさい!  
→人には五感がある。多様な感覚・表現がある。





## より多くの「ものさし」を持つ

「できる」「できない」だけでなく、色々な姿に対して、「ものさし」を多く持つことや、その子の「よさ」「みりよく」を見るまなざしをもつことが大事である。



例) 1番速かった子どもに「速かったね」。最後にゴールした子どもに「最後までよく走り抜いたね」。

速かったことだけでなく、どんなところがすごいと感じたのか、比べてどうだったかなど、具体的に言葉で伝えることが良い。本人も周囲の子どもたちもよく聞いている。

## 環境を通した教育・どの子どもにもわかりやすい環境づくり

基礎的な環境整備は、その子に必要な配慮(合理的配慮)の土台となる部分。基礎になる土台の配慮が重要になる。

### ●言葉を整える・さまざまな「ことば」を活用する

- ・言葉を『絵』にしてから理解する。  
→絵に表せない「ことば」(例:これ、あっち、待ってなど)の理解に対しては、具体的に伝える方が伝わりやすいかもしれない。
- ・伝わる手段であれば、アプローチはいろいろあって良い。  
→イメージを持ちやすく、これからを見通せるような絵表示を使い、ボードで知らせるなど。
- ・「ダメ」ではなく「してほしいこと」を子どもの楽しさと併せて伝えると良い。

### ●場を整える

- ・見てわかる言葉の活用(いつでも振り返れる)
- ・カーテンを付けて注意が移りにくい環境にする。
- ・「時間」も大切な環境

それぞれの違いに応じるために援助する、ありのままのその子が参加できるようにする環境整備が大切である。



## つながっていく思い・関わり

子どもたちに伝播していく思いやりや関わり

- ・「自分とは違う」ことへの違和感・興味
- ・保育者のことばや関わりを通して知っていく。
- ・保育者や遊びを介して知ろうとする。
- ・譲れない思いと、その子に必要な特別との間での葛藤や試行錯誤。
- ・「自分と同じ」ことの発見  
→関わってその子なりに相手を理解する。
- ・特性のある仲間へ

### 保育の強み

- ・やってみたいと思える遊びや活動
- ・時間と空間のゆるやかさ  
→活動に合わせて空間を区切ったり、作り方によって過ごしやすさが変わったりしてくる。
- ・子ども自らが選べる素材・道具  
→やってみたいと思えることが大事。
- ・安心・安全の保障(養護面)
- ・分かち合える仲間や保育者

## 保育者がつながっているからこそ

- ・孤立しない保育
- ・分断しない保育
- ・「心理的安全性」の確保された保育
- ・対話しながら進める保育

## 保育者の思いは周囲の子へつながる

- ・どの子どもも肯定的に見る(見ようとする)  
保育者のまなざし
- ・周囲の子どもも肯定的に見るまなざしをもつようになる
- ・その子の味方が増える!

## 見方を変えて味方になろう

- ・現状を中立的にうけとめること
- ・「困った子ども」は「困っている子ども」
- ・「よさ」「みりよく」「強み」に着目する



## 研修生の 報告書より

○インクルーシブな保育とは一人ひとり違いがあって当たり前、という考えがベースとなることから日々行っている一人ひとりにあった応答的な保育そのものだと感じました。支援の必要の有無にかかわらず子どもの姿を捉え個々に合わせた関わり的重要性を再確認しました。

○インクルーシブな保育は、支援を要する子どもに対してだけではなく、すべての子どもに対しても心がけたい保育であると思いました。みんな違って、それを尊重する保育を行えるようにしていきたいです。